

長谷堂合戦之事

一 去程の直江山城守長谷五年九月十日 畑谷の城を思ふ
所に攻落し軍兵を二千人外に長谷堂上の山を城を
攻めんと同九月十日長谷堂に押寄大將直江山城守侍
大將上泉王水大関常陸守と輕大將松本幸と助後
陸奥春日右衛門あり 其時長谷堂に志村伊豆守を城
しく中組百騎中用と輕二百人龍谷を統る直江山
城守押寄長谷堂より拾壹丁程隔て菅沢山の陣を取
る是日右衛門山の尾端に陣を立羽子五十騎あり其時長谷
由なり城守の若者原打て出るとやりける所に伊豆守加

勢の敵と中金を一人も柵より外へ出さずして悪く静りあつて居
るは是れ伊豆守の家来大風右衛門權尾助解由と云者
大將にそそりて押寄ふたれける者も二百人撰出し相討を
定めて二千人ありて長谷堂の陣中へ忍び入るも是れもまた切伏
ける百騎あり思ふにけるるなれは陣中上を下へと返しての敵
味方にもあちそく同士討をせしあり 是日右衛門馬に乗へき
隙もなく漸く大將をとり山城守の陣中より引入る 然る
夜討の兵を馬より陣中より首級百拾五打取り味方わりの
人々をこれより右の首を切りたる 伊豆守も其時限りなく
戦ひの大將以外の者と夜討をせしを得せしなり 叔義光と云